
着付け奮闘記

河 美子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

着付け奮闘記

【Nコード】

N9239H

【作者名】

河 美子

【あらすじ】

お母さんは着物に目覚め、家で一人で着る稽古をしています。でも、出来上がりは美しくても。

今日は鏡に向かって一人で着物を着ます。

まず、着物スリップを着ます。ここで足袋を履きます。そうしないと、あられもない恰好で足袋をはくことになります。

これから、トイレに行けなくなるから、行っておきましょう。次は長襦袢です。

長襦袢には、伊達巻をして、人によつてはここで、ウエストをまつ平らにします。

私は、ウエストありませんから、タオルなど入れることにはなりません。ハイ。

「お母さん、お腹すいた。なんかない？」

「おにぎりを作つて。冷蔵庫を見てごらん。」

さて、次が着物です。てらてらしたものは着にくいよね。今日は紬です。これは着易いので、好きです。

えーと、まずは襟が崩れないように、洗濯ばさみで長襦袢と着物の襟と一緒に挟みます。そして、裾が床すれぐらいに着て置いて、腰ひもをすると足袋が見えるくらいになります。

おはしよりは厚ぼつたくなると、太つて見えるから、ウエストにためる感じで折り目はきれいに薄くしましょう。

「お母さん、僕のユニフォームがないー。」

「もうバッグに入れてるー。よく見てごらん。」

「あつたー。」

「でしよう？」

胸元はとても大事。私はここでぴしつと決めたいのです。ひもで襟がくずれないようにキュツと締めます。ここまでで、ほぼ完成です。

次がいよいよ帯です。帯板をゴムつきのにしたから、ここでパチンとつけておきます。

「お母さん、わしのメガネがないが。」

「お爺ちゃんのメガネは、さっきトイレにありましたよ。」

「ほほう、そうかね。誰が置いたんだろう。」

「誰でしょうねえ。」

名古屋帯は、先を半分に折りたたんで、左胸に先が来るようにして、体に巻きつけます。柄が前に来たら、右手と左手、それぞれ帯を持ってぎゅっと締めます。ここからが難しいのよ。

右手で帯の上線のところを押さえながら、仮ひもを結びます。帯山を作って、帯枕を入れて結びます。さらに、人差し指ではかつて、帯のたれの部分を決めます。つまり、山とたれを決めると、余った部分に、ひもを通して帯の形ができますね。

「お母さん、僕のネクタイピンはどこかねえ。」

「えーと、紺のネクタイにつけたままでしょ。」

「そうか、ソックスは新しいの、なかったかね。」

「下から3番目に入ってますよ。」

帯の先を左手に持って、帯の山へ入れると、できあがりのはず。

「きゃー。」

とんとんと、下からみんながあがって

「どうしたの。お母さんどこへ行くの。」

「いいじゃないか、お母さん、日本女性は着物だねえ。」

「何で、悲鳴なの。」

と、口々に言っていると、

「だって、帯揚げかぶせるの忘れてたー。」

「どれ、やってあげるよ。」

「このピンクの帯揚げを、帯枕の上にかぶせてくれる?」

「よしよし、こうかな。あれ、ひもがほどけたよ。」

「あー、仮ひもが。」

きれいなお母さんは消えました。

お母さんの着付け教室通いは3回目です。今じゃ、ひもを口にく

わえて着ています。

ちよつと怖いです。練習を始めると、みんな出かけることにして
います

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9239h/>

着付け奮闘記

2011年1月9日15時40分発行